

コード No. 10323

**Anti-Human
Amyloid β (N) (82E1) Mouse IgG MoAb**容量 : 50 μ g

-
- はじめに : アルツハイマー病は1907年ドイツの神経病理学者 A. Alzheimer によって最初に報告され、現在では老人性認知症の最も大きな原因となっています。アルツハイマー病の脳に多く現れる老人斑はアミロイドベータタンパク質(A β)によって構成されています。A β は 40~43 アミノ酸からなるペプチドで、 β -および γ -セクレターゼの働きにより、A β 前駆体タンパク質(APP:695, 751または770アミノ酸からなる膜タンパク)から切り出されてくるといわれています。
本抗体はヒトアミロイドベータタンパク質の N-末端に特異的に反応しますので、 β -セクレターゼ切断によって生じる APP タンパク質断片を検出するのに有用です。
- 免疫抗原 : Human Amyloid β (1-16)の部分合成ペプチド
(DAEFRHDSGYEVHHQK)
- 起源 : マウス \times マウス ハイブリドーマ
(X63 - Ag 8.653 \times BALB/c マウス脾臓細胞)
- クローン名 : 82E1 サブクラス : IgG₁
- 精製方法 : 抗原特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 0.05 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 0.5 mL 添加 (この時濃度は 100 μ g/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2~8 $^{\circ}$ C 保存 5年間安定
溶解後 -20 $^{\circ}$ C 保存 2年間安定
- 使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 約 1 μ g/mL にて使用可能
ホルマリン固定、パラフィン包埋切片の場合ギ酸処理*によって染色性が著しく向上します。
*ギ酸処理方法: 脱パラフィン後ギ酸に 5 分間浸漬した後、流水洗浄
- : ウェスタンブロッティング 約 1 μ g/mL にて使用可能
- : 免疫沈降法 3~5 μ g/test にて使用可能
- 特異性 : Human Amyloid β N 末端と特異的に反応します
切断されていない APP とはほとんど反応しません
可溶性 Amyloid β 、難溶性の fibrillar A β を同レベルで検出できます
- 文献 : Horikoshi Y, Sakaguchi G, Becker AG, Gray AJ, Duff K, Aisen PS, Yamaguchi H, Maeda M, Kinoshita N, Matsuoka Y. Development of Abeta terminal end-specific antibodies and sensitive ELISA for Abeta variant. Biochem Biophys Res Commun. 2004 Jul 2;319(3):733-7.

商業製品の原料としてお求めの場合、当社の許可が必要となります。

株式会社 免疫生物研究所

〒375-0005 群馬県藤岡市中 1091-1

電話: 0274-50-8666 FAX: 0274-23-6055

URL: <https://www.ibl-japan.co.jp> E-mail: do-ibl@ibl-japan.co.jp

040702/NK

241024/MS

241025/MS